

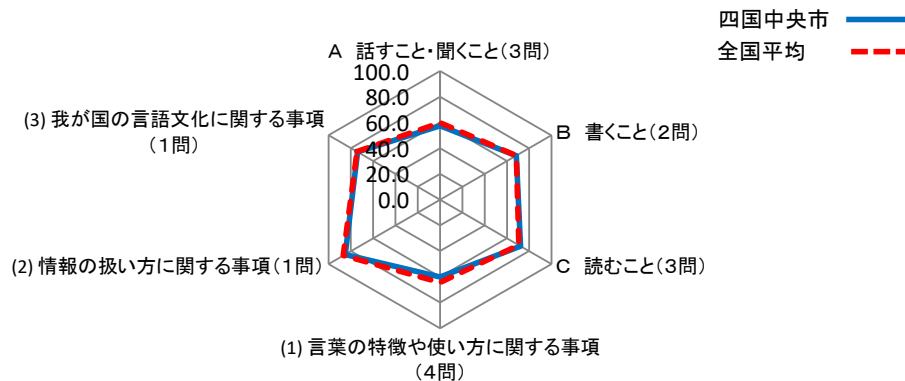
令和6年度全国学力学習状況調査の結果について四国中央市の小学生の状況についてお知らせします。

1 学力の状況

レーダーチャートは、各領域における正答率を示しています。項目の後の()内の数字は、対象問題数を表しています。問題によっては、複数の項目に含まれる場合があります。

国語科では、「書くこと」と「読むこと」において、昨年度と比較して向上し、全国平均との比較でも、平均正答率が上回りました。算数科では、「数と計算」と「データの活用」において、昨年度より大きく向上し、全国平均との比較でも、上回っています。それぞれの分析は以下のとおりです。

国 語

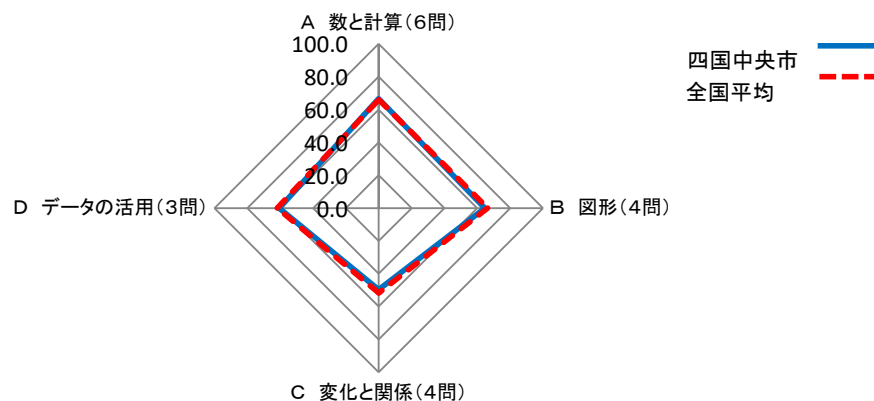


【国語分析】

「書くこと」と「読むこと」以外の領域で、平均正答率が全国平均を下回りました。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」において全国平均との差が最も大きくなっています。正答率が最も低かった問題は、配当漢字を文書の中で正しく使う問題で、無回答率も最も高くなっています。ICTの有効活用によるドリル学習だけでなく、従来の実際に漢字を書く活動と合わせて取り組むことで、基礎・基本の徹底に努めていきます。

「読むこと」については領域全体で、全国平均を上回りました。物語を読んで、心に残ったところとその理由を条件に合わせて書く記述式の問題は、最も正答率が高く、全国平均を大きく上回っています。これまで授業の中で自分の考えをまとめて書く活動に取り組んできた成果が表れています。今後も引き続き、授業や課題の中で、自分の考えを書く活動に取り組み、さらにそれを友達に分かりやすく伝えたり、話し合ったりする表現力を育てていきます。

算 数

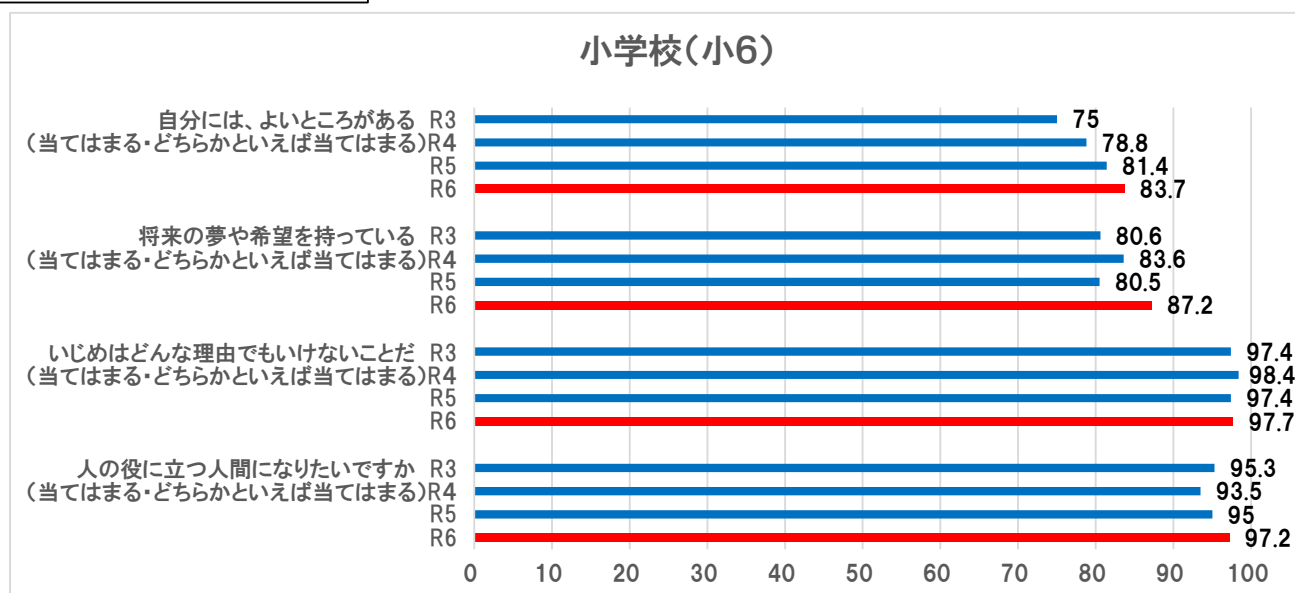


【算数分析】

全ての領域の平均正答率が昨年度を大きく上回りましたが、「数と計算」以外の領域では、全国平均を下回っています。特に「図形」領域においては、直径22cmのボールがぴったりと入る直方体の箱の体積を求める式を書く問題が全問題中で一番正答率が低くなっています。引き続き、授業の中で、実物进行操作する活動とICTを活用した視覚的に捉える活動のベストミックスで授業を展開し、図形に対する具体的なイメージを掴めるよう学習を進めていきます。

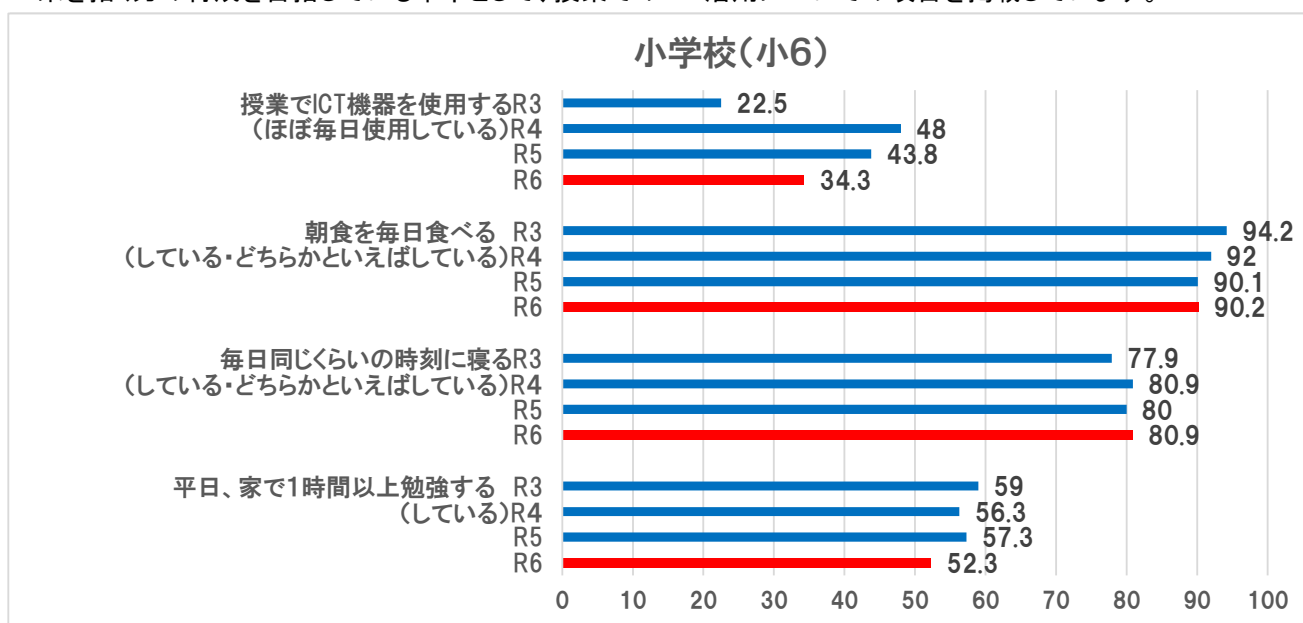
計算の仕方や考え方を式や言葉で説明する記述式の問題において、正答率が低い傾向があるので、授業の中で、端末やホワイトボードを活用して、自分の考えを分かりやすく伝える活動に力を入れ、表現力の育成に努めていきます。

2 心の状況



3 生活習慣の状況

※ 生活の中にICT機器が大きく関わってきていることと、GIGAスクールの実現による確かな学力を基盤とした未来を拓く力の育成を目指している本市として、授業でのICT活用についての項目を掲載しています。



【分析】

心の状況については、全ての項目が昨年度より上昇し、「人の役に立つ人間になりたい」「将来の夢や希望を持っている」「自分にはよいところがある」では、令和3年度以来、最高値となっています。特別活動や総合的な学習の時間、道徳科の授業等の充実により、ゲストティーチャーをはじめとする様々な人とのふれあいや実物に触れたり見たり、聞いたりする体験活動を通して、子どもたちの自己有用感が高まり、豊かな心が育ってきています。今後も、更に子どもたちが豊かな心を持ち、互いに認め合い、励まし合う活動を進め、自他を大切にできる生き方ができるよう努めてまいります。

生活習慣の状況では、「毎日同じ時刻に寝る」「朝食を毎日食べる」は、ご家庭のご協力により、昨年度に引き続き、高い数字となっています。「平日、家で1時間以上勉強する」は、昨年度より5ポイント低下しており、全国平均と比べても改善が必要な項目となっています。今後も引き続き、1人1台端末を活用した児童にとって取り組んでみたい課題の提示を工夫しながら、楽しく家庭学習に取り組む児童の育成に努めてまいります。

「ICT機器を授業で毎日使用している」の割合が昨年度と比べて大きく下回っていますが、これは本市が進めている「アナログとデジタルのベストミックス」により、それぞれの良さを生かした活動の在り方を授業の中で効果的に取り入れ、子どもたちにとって「分かる・できる」授業づくりを進めている結果と捉えられます。